

◆実践問題29◆

(次の文章は、権大納言殿の息子である若君についての記述である。)

やうやう大人び給ふままに、若君は、あさまし

うもの恥をのみし給ひて、女房などにたに、少し

御前遠きには見え給ふこともなく、父の殿をもう

とく恥づかしくのみおぼして、やうやう御文習は

し、さるべきことどもなど教へ聞こえ給へど、お

ぼしもかけず、ただ「いと恥づかし」とのみおぼし

て、御帳の内にのみうづもれ入りつつ、絵かき、雛

遊び、貝覆ひなどし給ふを、殿はいとあさましき

ことにおぼしのたまはせて、常にさいなみ給**ば**、

はてはては涙をさへこぼして「あさましうつつま

し」とのみおぼしつつ、ただ母上・御乳母、さらぬ

- 1回目
- 2回目
- 3回目
- 4回目
- 5回目

はむげに小さき童などにぞ見え給ふ。さらぬ女房

などの御前へも参れば、御几帳にまつはれて、「恥

づかし、いみじ」とのみおぼしたるを、いとめづら

かなることにおぼし嘆く。